

26PW-am004

N-ホルミル-1,2-ジヒドロレニエロン誘導体の合成研究

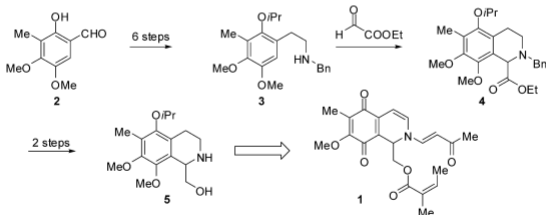
○金澤 佳士¹, 桐原 佐世子¹, 齋藤 直樹¹(明治薬大)

【目的】

イソキノリンキノン海洋天然物 *N*-ホルミル-1,2-ジヒドロレニエロン誘導体 (**1**) は、青色海綿 *Xestospongia* sp.より単離、構造決定された極微量天然物である。¹⁾ 本品の絶対構造は未決定であり、その生物活性に興味を持たれる。そこで、**1**の実用的な供給手段としての合成経路の確立と絶対配置の決定を目的とする合成研究を展開した。

【実験・結果】

アルデヒド (**2**)から、閉環前駆体 (**3**)を 6 工程にて大量合成した。次いで、当研究室にて開発した *N,O*-アセタールを経る Pictet-Spengler 型反応により閉環体 (**4**)を収率 86%で得た。さらに **4** は、脱ベンジル化、エチルエステルの還元によりアミノアルコール (**5**)へ変換した。最後に **5** から **1** への変換を試みた。



1) Frincke J. M.; Faulkner D. J., *J. Am. Chem. Soc.*, **1982**, 104, 265-269.